佐渡ジオパーク基本計画

SADO GEOPARK ACTION PLAN

―― 金とトキの島でたどる
3 億年の旅とひとの暮らし ――

佐渡をジオパークに

平成２５年２月
佐渡ジオパーク推進協議会

目次

第Ⅰ章　計画の目的と名称

１　計画策定の目的 ･････････････････････････････････ 3
　(1)　目的 ･･･ 3
　(2)　背景 ･･･ 3
　(3)　活動 ･･･ 3
２　名称とテーマ ･････････････････････････････････････ 4
　(1)　名称 ･･･ 4
　(2)　テーマ ･･ 4
３　計画の期間とエリア ･････････････････････････････････ 4
　(1)　期間 ･･･ 4
　(2)　対象エリアとジオサイトの概要 ･････････････････ 4
　　１０か所のジオサイトと主な見どころ ･････････････ 5

第Ⅱ章　計画の方針と活動計画

１　基本的な方針 ･････････････････････････････････････ 6
２　３本の柱と方向 ･･･････････････････････････････････ 6
３　活動計画 ･･･ 7
　(1)　保全と整備 ････････････････････････････････････ 7
　(2)　学習・教育への活用 ････････････････････････････ 9
　(3)　ジオツーリズムの推進 ･･････････････････････････ 10
　(4)　持続可能な地域社会の実現 ･････････････････････ 12
　(5)　３つの世界的な遺産の連携 ･････････････････････ 13
　(6)　ネットワークへの加盟 ･････････････････････････ 13

第Ⅲ章　運営組織

１　推進協議会 ･･････････････････････････････････････ 14
２　運営委員会・部会 ･････････････････････････････････ 14
３　推進体制のイメージ ･･････････････････････････････ 14

第Ⅳ章　地域戦略

１　資源の掘り起こし ･････････････････････････････････ 15
２　基盤づくり ･･･････････････････････････････････････ 15
３　地域づくり ･･･････････････････････････････････････ 15

第Ⅴ章　アクションプラン（実施計画）

１　ジオパーク推進アクションプラン ･･････････････････ 16
２　ジオサイト計画 ･･･････････････････････････････････ 18
【参考】 ･･･ 23

第Ⅰ章　計画の目的と名称

1　計画策定の目的

(1)　目的

- 本基本計画は、「佐渡ジオパーク基本構想」に基づき、佐渡島内に存在する大地の遺産を地域住民、調査・研究機関、行政及び民間団体等が協働で、保全すると共に、学習や教育への活用、地域の自然や歴史や文化を巡る特徴ある魅力的なジオツーリズムを通じて、持続可能な地域社会の発展を目指すための総合的な指針として策定するものです。

(2)　背景

- 20 世紀後半の高度経済成長に伴い、都市部への人口集中が加速されました。一方、地方では過疎化や少子高齢化が進み、特に山間部や海岸地域では集落の存続が困難になっている現状です。
- 佐渡市においても例外ではなく、農林水産業や観光産業等の衰退により就労の場が減少すると共に、若者の流出による人口減少や少子高齢化は大きな課題となっています。
- 佐渡は美しい海岸線で囲まれ、暖流に洗われる自然が豊かな島です。金銀山鉱床や砂金山を育んできた大地（ジオ）の誕生や日本海の誕生を目で見て学ぶことのできる公園（パーク）です。南限・北限の多くの植物のほか、環境保全のシンボル「トキ」や「サドガエル」等、多様な動物が棲息しています。
- 佐渡市は、既に世界文化遺産とGIAHS（ジアス）（世界農業遺産）に取り組んでおり、ジオパークと深い関わりを持つこれらを背景に、佐渡のジオパークづくりを進めます。

(3)　活動

- ジオパークの取組は、ユネスコの支援によって設立された世界ジオパークネットワークにより世界各国で進められています。我が国でも日本ジオパーク委員会が中心となり急速に広がり始めています。その活動は**『大地の遺産』を適切に保全し、学習や教育に活かし、ジオツーリズム等を通じて持続的な地域社会経済の発展に貢献しようとする取組**です。
- 佐渡に残っている豊かな自然とそこで育まれた歴史や文化を見つめ直し、佐渡ジオパーク推進協議会を中心に、地域住民、関係機関、行政及び民間団体等が協働でジオパークを推進します。

2　名称とテーマ

(1)　名称

佐渡における大地の遺産は、佐渡島全域のみならず周辺海域も含め、広く存在します。

名称は『佐渡ジオパーク』とします。

(2)　テーマ

佐渡島は、そのほとんどが国定公園、名勝や天然記念物に指定されています。数々の貴重な自然や歴史・文化を訪ね、学習し、長く後世に伝え活用していきます。

佐渡ジオパークのテーマは

『金と銀の島でたどる３億年　日本海 3000 万年
佐渡島 300 万年の旅と　ひとの暮らし！』とします。

3　計画の期間とエリア

基本計画は、基本構想を基に計画的な体系を示すもので、計画の期間とエリアは、次のとおりとします。ただし、社会情勢の変化や計画事業の評価等を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行います。

(1)　期間

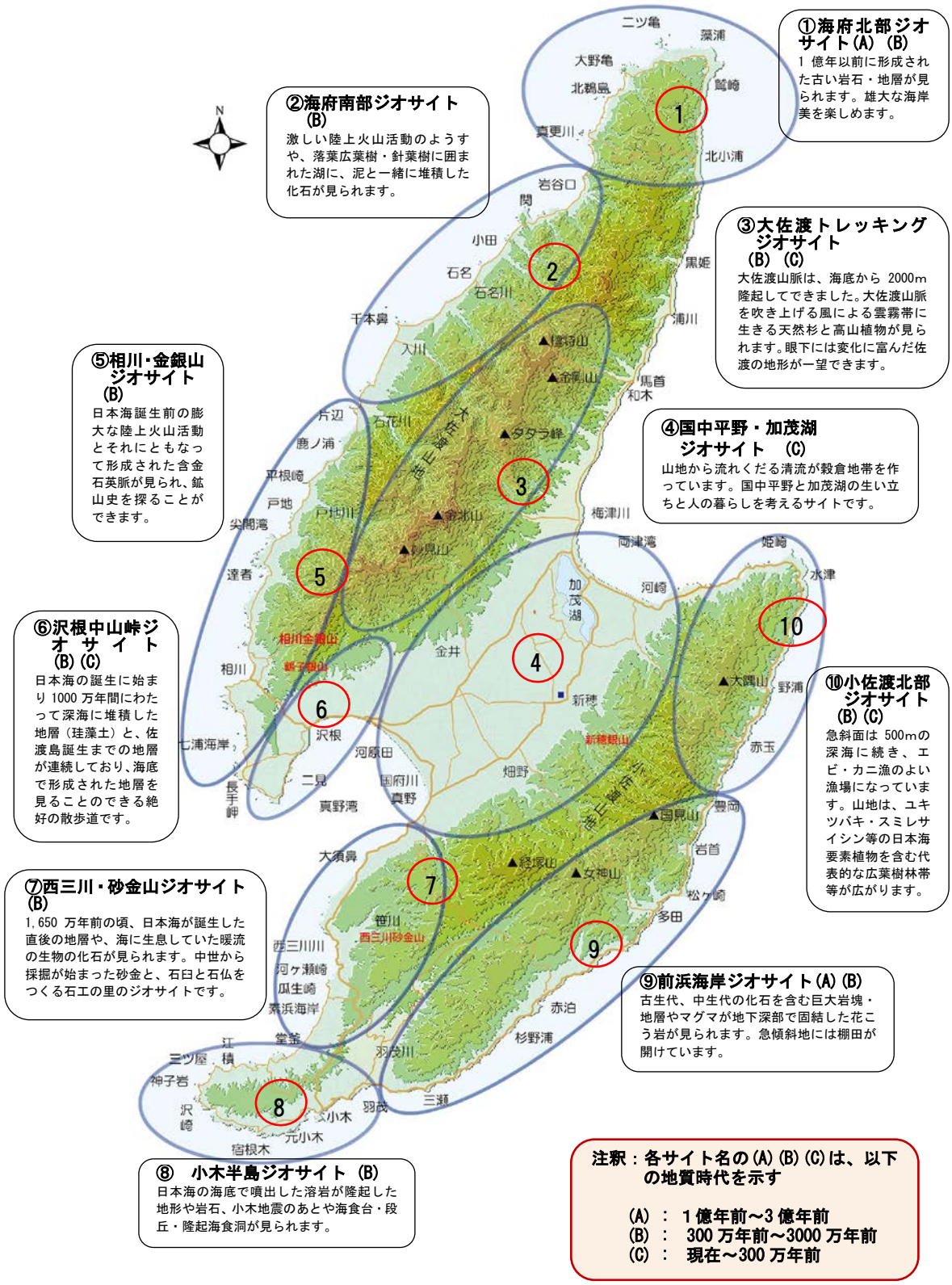
ジオパーク基本計画の期間は、平成２５年度から５年間とします。アクションプラン（実施計画）の期間は３年間とし、ローリング方式で見直しを行い、調整を図ります。

(2)　対象エリアとジオサイトの概要

佐渡島全域を佐渡ジオパーク基本計画の対象エリアとし、10 か所のジオサイトを整備し活用します。

《10 か所のジオサイトと主な見どころ》

☆ 各ジオサイトの詳細は、18～22 頁を参照ください。☆



①海府北部ジオサイト(A) (B)
1 億年以前に形成された古い岩石・地層が見られます。雄大な海岸美を楽しめます。

②海府南部ジオサイト (B)
激しい陸上火山活動のようすや、落葉広葉樹・針葉樹に囲まれた湖に、泥と一緒に堆積した化石が見られます。

③大佐渡トレッキングジオサイト (B) (C)
大佐渡山脈は、海底から 2000m 隆起してできました。大佐渡山脈を吹き上げる風による雲霧帯に生きる天然杉と高山植物が見られます。眼下には変化に富んだ佐渡の地形が一望できます。

④国中平野・加茂湖ジオサイト (C)
山地から流れくだる清流が穀倉地帯を作っています。国中平野と加茂湖の生い立ちと人の暮らしを考えるサイトです。

⑤相川・金銀山ジオサイト (B)
日本海誕生前の膨大な陸上火山活動とそれにともなって形成された含金石英脈が見られ、鉱山史を探ることができます。

⑥沢根中山峠ジオサイト (B) (C)
日本海の誕生に始まり 1000 万年間にわたって深海に堆積した地層（珪藻土）と、佐渡島誕生までの地層が連続しており、海底で形成された地層を見ることのできる絶好の散歩道です。

⑦西三川・砂金山ジオサイト (B)
1,650 万年前の頃、日本海が誕生した直後の地層や、海に生息していた暖流の生物の化石が見られます。中世から採掘が始まった砂金と、石臼と石仏をつくる石工の里のジオサイトです。

⑧ 小木半島ジオサイト (B)
日本海の海底で噴出した溶岩が隆起した地形や岩石、小木地震のあとや海食台・段丘・隆起海食洞が見られます。

⑨前浜海岸ジオサイト(A) (B)
古生代、中生代の化石を含む巨大岩塊・地層やマグマが地下深部で固結した花こう岩が見られます。急傾斜地には棚田が開けています。

⑩小佐渡北部ジオサイト (B) (C)
急斜面は 500mの深海に続き、エビ・カニ漁のよい漁場になっています。山地は、ユキツバキ・スミレサイシン等の日本海要素植物を含む代表的な広葉樹林帯等が広がります。

注釈：各サイト名の(A) (B) (C)は、以下の地質時代を示す

(A) ： 1 億年前～3 億年前
(B) ： 300 万年前～3000 万年前
(C) ： 現在～300 万年前

第Ⅱ章　計画の方針と活動計画

1　基本的な方針

ジオパーク計画は、次のことを常に考慮し、地域の方々と話し合いながら進めます。

◇　科学的根拠に基づいていること

ジオパークは、科学的な根拠に基づいて佐渡における大地等の遺産を紹介します。ジオパークの活動は、地域、学識者や民間事業者等と協働して行います。

◇　幅広い人が楽しめること

様々な来訪者に、佐渡を楽しみながら見学していただけるように、年齢や目的、言語等を考慮し、提供するパンフレットや看板等の情報は分かりやすくします。

◇　自然環境と地域に配慮したものであること

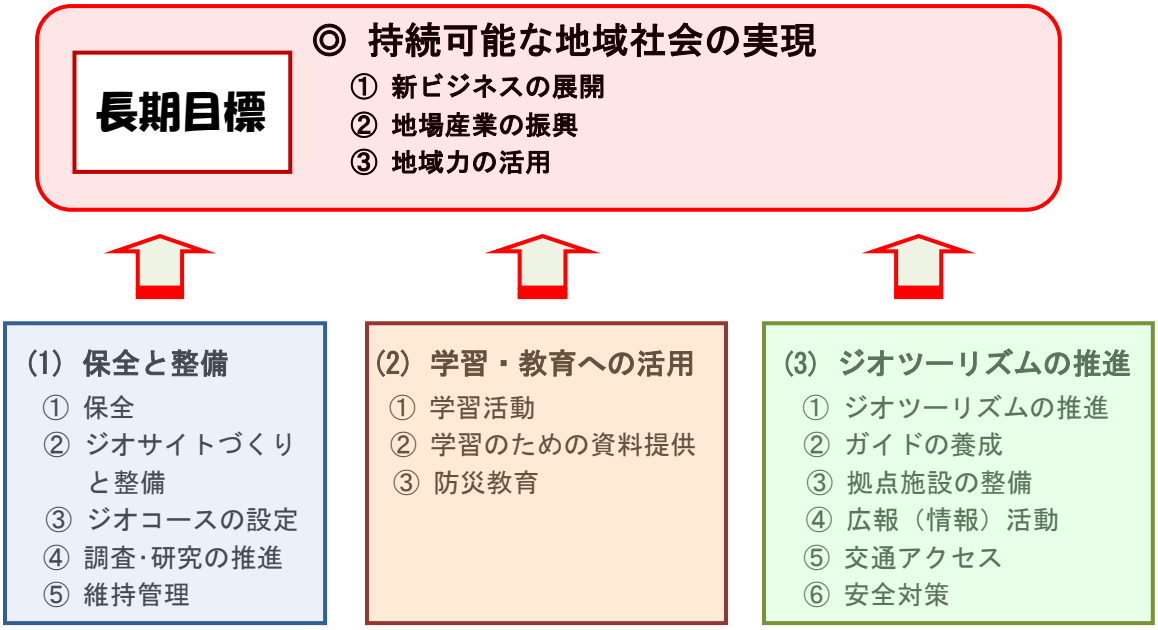
持続可能な地域社会の発展を目指すためには、「人」が「ジオ」や「エコ」に考慮すると共に、地域の方々の意見等を聞きながら自然環境への配慮をします。

◇　安全であること

大地をテーマとした見どころでは、コースやポイントは安全でなければなりません。いつ起こるか分からない災害等にも、対応できるよう配慮します。

2　３本の柱と方向

「保全と整備」・「学習・教育への活用」・「ジオツーリズムの推進」を３本の柱とし、持続可能な地域社会の実現を目指します。



3　活動計画

(1)　保全と整備

①　保全

○特徴ある資源と動植物等を保護し、貴重な遺産を楽しみながら見学できる場として永く保全します。

○保全にあたっては各種法令を遵守し、有識者の指導のもとに、地元住民の理解と協力を得ながら進めます。

○ジオポイントは、ジオサイトの中にとどまらず、重要な科学的現象や歴史を学ぶことができる地点です。ジオポイント周辺に存在する地形・地質の遺産及びそれらが大きくかかわる生物、生活、人々の暮しを見ることができる場所を指定し、ジオポイントを保全してその活用を図ります。

○時代のニーズの変化に応じて、地域における価値ある遺産は、有識者の意見と各地の住民からの意見を聞きながら、追加や変更を行います。また、重要な露頭や景観が新しく見つかれば、ポイントに組み入れます。

↑自然環境を保全し、生物等も紹介↓

②　ジオサイトづくりと整備

○ジオサイトは、佐渡島と周辺の海において、重要な地形・地質、恵みと災害をもたらす自然と景観、それらにかかわる文化や歴史的遺産として残る場所を対象とします。

○ジオサイトは、そこで生活をしている住民の方々の理解をいただきながら行うことを基本とし、地形・地質遺産や自然・歴史遺産等を調べ、見どころを把握し、ポイントを十分生かせるような計画を立てます。

○一般の見学者に配慮し、図や写真等で表現した案内板の設置や安全設備及び駐車場の確保に努めます。説明板には、分かりやすい簡潔な文章とイラストや写真のほか多言語やＱＲコードを備え、携帯電話等で説明を受けられるよう工夫します。

ジオサイトを紹介する案内看板

ジオポイントの説明板

③　ジオコースの設定（18～22 頁参照）

○ジオポイントを見て回るジオコースには、貴重な見ど

歴史的なジオポイント調査

ころや歴史的な見学地も組み込み、学習目的の明確な順路を設定します。

〇近年の旅行者ニーズの変化に伴い、家族・親子等少人数の旅行者に対応できるツアープログラムの構築を図り、地元に伝わる人々の暮しや伝説等を紹介し、興味を持って楽しめるように組み立てます。

〇モデルコースを設け、検証を行いながら本格的な運用を目指します。そして、「見て、聞いて、触れて、味わって、交流する」新たな体験・学習型観光の振興につなげます。

④　調査・研究の推進

調査研究部会の委員による話し合い

〇豊富な地質、地形、自然や生物に関する調査・研究は、ジオサイトを作るための基礎であり、自然の遺産保護の観点からも重要となるため、国、県、関係機関や地元団体と連携しながら進めます。

〇ジオサイトの現状のデータを収集し、新たな資源の発掘や調査・研究を続け、新しい情報の提供ができるよう、その都度、追加修正を行います。

⑤　維持管理

〇ジオサイト整備後の維持管理は、役割やその範囲等について地元住民や関係機関等と協議し進めます。

〇ジオサイトの保護・保全活動の実践状況は、ガイドや地元住民の協力を得ながら定期的な点検を行い、必要に応じて改善を含めた対策を講じます。

(2)　学習・教育への活用

①　学習活動

○子どもたちが自然の中で育ち、見る目を養うことは大切です。小・中学校及び高等学校の野外（体験）学習や理科の授業等の学習活動に対して、講師の派遣やカリキュラムの提供等、学校教育への支援を行いながら、相互の協力関係を築きます。

○実物を見て気付くことから自分たちの生活に関わりがあることを知るため、一般市民を対象とした各種講座を開設すると共に、各種グループや団体等にも、講師やガイドを派遣し、生涯学習活動の充実とジオパークを活用した学習の普及を続けます。

○近年の修学旅行では、実際に民芸品を作ったり芸能を体験したりする、体験学習型の旅行に関心が集まっています。従来のメニューに加えて、ジオパークを題材にした体験型の学習を取り入れます。

小学校の総合学習活動

「火打ち石を探そう」
親子体験ツアー

②　学習のための資料提供

○インターネット、テレビ、パンフレット等様々な媒体を使って幅広くジオパークを紹介します。

○パンフレットには、地質関連情報だけでなく歴史や文化に加え、交通や食事（店）等も盛り込みます。

○パンフレット等の資料関係は、ジオポイントの説明板の補完的な役割を持つような内容に配慮すると共に、一般の方々に分かりやすい内容に仕上げます。

○教育現場における副読本の作成も検討します。

ジオパークを紹介するパンフレット

③　防災教育

○地形や地質の観察を通じて、大地の動き、災害の歴史や地震が起きるメカニズム等を学ぶことにより、住民の防災意識の向上につなげます。

○市は防災計画やハザードマップを基にして、避難行動や災害への備えについて防災訓練を行っています。この各地で行われる訓練の中においても、関係機関、自主防災組織や事業所等と連携し、ジオパークの学習の機会を設け、地域の防災力を高めていきます。

地域防災訓練↑
↓自主防災研修会

(3)　ジオツーリズムの推進

電動アシスト自転車「エコだっチャリ」で快適に

①　ジオツーリズムの推進

○ジオツーリズムは、現地で実物を直接見る小旅行です。このジオツーリズムを通じて、大地を中心とする自然、地域の特性から育まれた生活・歴史文化を観光と融合させ、見学や体験学習等による観光誘客を推進します。

○モニターツアーの実施や市場調査等を行い、旅行者のニーズの把握に努め、人数・滞在時間・費用等旅行者の様々な要望に対応するため、快適で楽しいツアーの企画やイベントの開催へ活かします。

○ジオパークは、従来型の観光資源と結び付け、地域独自の資産を活用した楽しみ方があります。観光協会をはじめ交通、宿泊、飲食、買い物等一連の観光関係事業者との連携を図ります。

現地で枕状溶岩のでき方を学習

②　ガイドの養成

○ジオパークには、旅行者からより楽しんでいただくために現地の案内人が必要です。このため、ガイド養成講座を開催し、ジオパークガイドの養成を行います。養成講座では、現地の案内とストーリー性を加味した説明を研修するほか、万一の事態に対応するため、応急措置や救急対応を講座のカリキュラムに取り入れ、旅行者がより安全で安心して楽しめるような人材を育成します。

○ガイドの資質向上を図るため、既存のガイドとの研修会を実施し情報を共有します。また、バス、タクシー、ホテル、飲食店関係者等の観光関係者を対象とした、意見交換会等を開き、連携を図ります。

○児童生徒によるボランティアガイドに情報を提供し、活動を支援します。

↑ガイディングの基本や救急法↓を学ぶ「ガイド養成講座」

③　拠点施設（博物館）の整備

○ジオパークの拠点として既存の博物館を活用します。そこでは、佐渡島の誕生の歴史やそこに育まれた動植物や文化の変遷を学ぶことができる展示や体験コーナーを充実させ、来館者を現地へ誘導する情報を提供する場とします。

○インフォメーションセンターは、ジオツアーに必要不可欠な施設です。主な港等の玄関口にある「観光案内所」等と連携し、各ジオサイトの見どころやツアーの予約等来場者に様々な情報を提供します。

○ジオサイト内にある施設においてもジオパークの情報を発信する仕組づくりに取り組みます。

④　広報（情報）活動

○ジオマップ、パンフレット、市広報紙やＣＮＳ（市営ケーブルテレビ）、ホームページを活用してジオパークを紹介します。

○各種イベントの開催に合わせて、ポスターやグッズ等を展示してジオパークのＰＲに努めます。また、キャラクターの作成、バスや自動販売機等へのラッピング等の検討を行います。

○市民の理解を深めるため、定期的に講演会、報告会、発表会及びシンポジウム等を開催します。

○ジオパークの推進には、地域住民の理解と協力が不可欠です。このため、地区や集落への説明会や意見交換会を実施し、地域の方々と話し合い、自発的な活動への参加を進めます。

イベントでの広報活動
（トキツーデーウォーク）

先進地から講師を招いて講演会

⑤　交通アクセス

○様々な旅行者のために、主要な港からジオサイトまでの交通経路、地図、距離、手段、時間の目安等についての情報は、インフォメーションセンター、パンフレットやホームページで提供します。

○ジオサイトの移動手段としてレンタカーやタクシーのほか、レンタル自転車の情報も提供します。

電動アシスト式のレンタル自転車

⑥　安全対策

○ジオパークは、現地に直接足を運び、安全に見て聞いていただくことが大切です。このため、見学地への危険箇所のハード整備を行います。併せて、救急法の講習を受講したガイドによる注意喚起も行います。

(4)　持続可能な地域社会の実現

①　新ビジネスの展開

「地産地消」で地域振興

○佐渡の地域資源や地場産業を活かしながら、民間事業者、観光事業者や関係機関と連携し土産物やグッズ等の商品開発を実施し、地域経済の発展につなげます。

○北陸新幹線の開業を間近に控えており、これからの観光客や住民のニーズを把握し、対応できるよう戦略を立てビジネスの発展を目指します。

②　地場産業の振興

地酒と朱鷺認証米

○私たちの食生活の基盤となる農林水産業は、佐渡においては重要な産業の一つです。豊富で新鮮な食材や食文化は多くの人々を引きつける魅力があります。これらをジオパークと関連付けて更なる販売の拡大を目指します。

○飲食物では、地形・地質、気候や伝統技術を活かしたその土地ならではの地場産品が多くあります。地産地消や旬を基本として、ジオパークの要素を加えた関連商品として確立を目指します。

③　地域力の活用

地域での話し合い

○大地や自然、歴史や人の文化等は、すべてジオパークと位置付けて活用が可能です。地域にある資源や魅力を再発見し、島内外の人に紹介することで、佐渡に関心を持っていただき、多様な交流につながるよう地域の方々と話し合いを進めます。

○既に地域住民が自ら企画する地域づくりに取り組んでいる地区でも、ジオパークを一つのツールとして連携し活用することで、取組の視野が広がります。地域と様々な団体が一体となってジオパークづくりを推進し、目標とする持続可能な地域づくりにつなげます。

⑸　３つの世界的な遺産の連携

○佐渡市では、世界文化遺産やＧＩＡＨＳ（世界農業遺産）に取り組んでいます。（23 頁参照）この２つの遺産は、多くの関係者や関係機関に高く評価されていますが、大地の成り立ちと金銀山や水田開発、歴史的な背景や多彩な文化、島に生きる人々の暮らしと関わり等ジオパークとは密接に関連しています。このため、３遺産の魅力的な効果を高められるよう連携を図ります。

○ジオコース整備や看板類の設置には、景観や安全性を損なうことのないよう十分な配慮が必要です。特に遺産周辺では関係する機関、市民や事業者と意見調整を図りながら慎重に進めます。

○ジオガイドにおいても、大地との関わりや歴史と人々の暮らしを一連のストーリーで案内ができるよう、既存ガイドと連携して研修を行います。

↑相川金銀山
（道遊の割戸）
↓世界農業遺産の景観
（岩首の棚田）

⑹　ネットワークへの加盟

○豊かで多様な自然遺産と歴史や文化等の魅力が佐渡島には豊富にあります。これらのジオパークに関わる遺産を保護し研究に活用すると共に、自然と人との関わりを理解する場所として整備し、科学的な教育や防災教育の場として、また、新たな観光資源として地域の振興に活かすため、日本ジオパークネットワーク（JGN）への加盟に向けた取組を推進します。

○運営や活動の組織体制、公園としての整備、ガイド付きのツアー、防災や学習・教育活動等を更に推進し、世界ジオパークネットワーク（ＧＧＮ）への加盟を目指します。

ジオパーク全国大会での
ＰＲ

第Ⅲ章　運営組織

1　推進協議会

ジオパークの運営には、県、市、教育関係機関、事業者や住民が一体となった取り組みが必要であることから「佐渡ジオパーク推進協議会」を、平成 23 年５月に設立しました。協議会は、世界ジオパークネットワークのガイドラインに沿って、社会・経済・文化が持続ある発展を目指し、佐渡のジオパークの推進母体として市民の郷土愛の醸成を図ります。

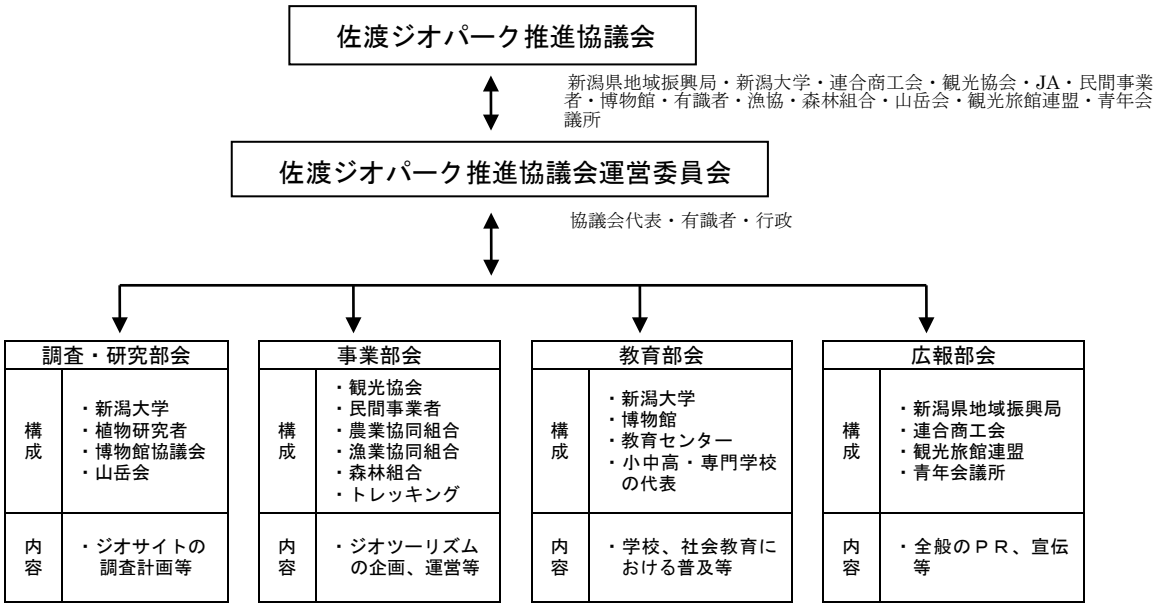
組織を円滑に進行させ、諸資料を整理・保存・活用するため、ジオパーク推進室に事務局を置きます。

「佐渡ジオパーク推進協議会」設立総会
（平成 23 年 5 月 11 日）

2　運営委員会・部会

佐渡ジオパーク推進協議会の中に運営委員会及び部会（調査研究・事業・教育・広報）を設けて、それぞれ専門的な視点で目標・計画を立て、実践・運用、点検・検証、見直し審議（PDCA サイクル）を行い、進行管理をしていきます。

3　推進体制のイメージ



第Ⅳ章　地域戦略

1　資源の掘り起こし

◇ 魅力ある自然景観、歴史と文化、金と銀、生物多様性等を活かします。

①　地域の資源発掘

地域にある魅力的な自然（地質・生物）遺産を発掘し、ジオコースに組み入れて紹介します。地域に存在する貴重な資源でも、地元の人たちには見過ごされていたり、気付いていなかったりしている場合があります。その歴史的・文化的な資源を調査し、説明や物語を加えることでジオポイントとして活用します。

②　体験学習メニューの開発

近年では体験型観光のニーズが高まっています。従来の工芸体験に加え、グリーンツーリズム、エコツーリズム、食文化等様々な分野で多彩なメニューの創出を関係機関と検討し開発します。学校とエージェントとの連携により、体験型の修学旅行の招致に努めます。

2　基盤づくり

◇ 現地案内のガイド育成と体制づくりを充実し、見学者のニーズに対応します。

①　ガイド組織

貴重な自然・資源と感動・楽しみをつなぐには、ガイドの役割が重要となります。ジオパークガイドを育成し、既存ガイドと連携した体制づくりを推進します。

②　案内板等の多言語対応の充実

貴重な自然、歴史、文化等を国外から来る観光客を考慮し、案内板や説明版には外国語による解説を付記します。

③　マーケティング戦略

交流人口の拡大や地域の発展を目指し、旅行者のニーズの把握や社会的な動きに応じた商品開発等、市場調査（戦略）を行います。

3　地域づくり

◇ 地域住民の主体的な取組みとその効果が、地域に還元できる仕組をつくります。

①　地域の充実

ジオパークの目指す先は、地域の持続的な発展です。地域に根ざした文化的な交流等をその地域の特色を活かした形で創設します。

②　受け入れ体制

市民一人ひとりが見学者（観光客）に対し、「おもてなしの心」を持って接することが大切です。中でも農林水産業とサービス（観光）産業との連携により、地産地消を基本にした郷土の食材で地場産品の良さを、自信をもって提供できるよう民・官を超え「農・観・商」の連携を図ります。

③　人材育成

地域づくりに取り組むには、そのリーダーやコーディネーター役を担う人材が必要です。地域の発展を目指して活動するＮＰＯやグループ団体に支援協力し育成に努めます。

第Ⅴ章　アクションプラン（実施計画）

佐渡ジオパーク基本構想及び同基本計画に基づき、次の年次計画及びジオサイト計画を定め推進します。

1　ジオパーク推進アクションプラン

（⇒：準備・検討　　☆：達成・完成）

区分	事業名	主な事業概要	項目	活動目標　及び　年次計画				担当部会
				H24	H25	H26	H27	
保全・整備関係	調査研究委託（段丘・火山灰・生痕等）	調査研究及び報告書の作成	報告書数	1	1	1	未定	調査研究
		佐渡の自然史（生痕化石、玄武岩火山活動、温泉水質）調査報告書	事業年度	☆				
		地形調査		⇒	☆			
		火山灰調査			⇒	☆		
		ジオパーク解説書（地質編）		☆				
		ジオパーク解説書（動・植物編）			⇒	☆		
	各ジオサイト調査	ジオサイトの調査研究	事業年度					調査研究
		ジオサイトのデータ収集		⇒	⇒	⇒	⇒	
		新たなジオポイントの発掘		⇒	⇒	⇒	⇒	
		各ジオサイトの保護、保全活動の具体案の作成及び実行		⇒	⇒	⇒	⇒	
	各ジオサイト整備	看板類、散策路の整備等（整備後は点検、補修、改善等）	完了箇所数	0	2	3	2	事業・調査研究
		小木半島ジオサイト	事業年度	⇒	☆	→	→	
		西三川・砂金山ジオサイト		⇒	☆	→	→	
		相川・金銀山ジオサイト			⇒	☆	→	
		海府（北部・南部）ジオサイト			⇒	☆	→	
		沢根中山峠ジオサイト			⇒	☆	→	
		大佐渡トレッキングジオサイト				⇒	☆	
		国中平野・加茂湖ジオサイト				⇒	☆	
		小佐渡北部ジオサイト				⇒	☆	
		前浜海岸ジオサイト					⇒	
学習・教育関係	市民講座	市民への学習機会の提供と普及	回　数	15	15	15	15	教　育
	出前授業	地域、集落、グループ等への講師派遣		50	50	60	60	
	学校関係への教育活動	総合学習や理科授業への協力		15	15	20	20	
	防災意識の高揚	関係機関との連携による防災教育		1	1	2	2	
	教材作成	解説教材や情報の提供	事業年度	⇒	⇒	⇒	⇒	
ツーリズム関係①	講演会、報告会、シンポジウム等	市民への普及、啓発	開催数	1	1	2	2	広　報
	コース、ストーリーづくり	地形・地質に加え歴史、生活、動植物、暮らしのストーリーづくり	コース・ストーリー数	2	5	5	5	事業・調査
	パンフレット等の作成	見学者用パンフレット、ガイド用ガイドブック等（テキスト）の作成（更新）	パンフ数	3	1	3	5	事業・調査
		市民向けの普及啓発用パンフ	事業年度	☆				
		首都圏、準市民向けパンフ（え～る別冊）		☆				

(⇒：準備・検討　　☆：達成・完成)

区分	事業名	主な事業概要	項目	活動目標　及び　年次計画				担当部会
				H24	H25	H26	H27	
ツーリズム関係②	パンフレット等の作成	小木半島ガイドブック	事業年度	⇒	☆			事業・調査
		西三川・砂金山ガイドトブック			⇒	☆		
		相川・金銀山ガイドブック			⇒	☆		
		小木半島ガイドマップ		☆				
		西三川・砂金山ガイドマップ		⇒	☆			
	ジオガイドの養成、組織体制づくり等	ガイド養成講座の開催、組織体制づくりと充実等	ガイド養成数	20	10	10	10	事　業
	エージェントプロモーション活動	観光協会等と連携した旅行業者への販売活動	エージェント数	1	1	4	5	
	ジオツーリズムの展開	関係機関との連携によるジオツーリズムの展開	ツアー数	1	1	4	5	
	ジオ商品の開発	地元企業との連携によるオリジナル商品の開発	事業年度		⇒	⇒	⇒	事業・広報
	PR品の製作	シャツ、のぼり、バッジ、シール、ステッカー等の製作	グッズ種類数	5	2	10	10	
	ホームページ等の情報発信	ホームページ開設による情報発信、更新	事業年度更新	☆	⇒	⇒	⇒	広　報
	宣伝チラシ、ポスター作製	市内事業所や商店へのPR	作成種類数	1	3	5	5	
	ロゴマークの活用	公式ロゴマークの活用	申請受け数	10	20	20	50	
	マスコットキャラクター等の検討	ゆるキャラ、ラッピングなどの効果的なPR方法の検討	事業年度		⇒	⇒		事業・広報
地域力向上	地域力の活用	地域への話し合い	集会数	15	20	20	20	広　報
	マーケティング戦略	ジオニーズの把握、市場調査等	調査数	0	1	1	1	
日本認定関係	申請書類作成	日本ジオパーク申請書類作成、提出	事業年度	⇒	☆			
	日本認定準備	プレゼンテーション、現地審査コース等準備	事業年度	⇒	☆			
	認定課題、改善	認定後に課される改善計画書の提出及び改善	事業年度		☆	⇒	⇒	
世界認定関係	世界認定に向けた整備・準備	世界ジオパーク推薦認定のための推進活動、PR	事業年度	⇒	⇒	⇒	☆	
	世界ジオ申請書作成・提出	世界ジオ推薦申請書提出（JGCへ）	事業年度		⇒	☆		
		世界申請書提出（GGNへ）	事業年度			⇒	☆	
その他	拠点施設の整備	ガイダンス施設の方向性検討	事業年度	⇒	☆			調査研究・教育
		ガイダンス施設の整備			⇒	☆		
		案内所の整備	案内所数	1	1	2	2	事業部会

2　ジオサイト計画

①　海府北部ジオサイト

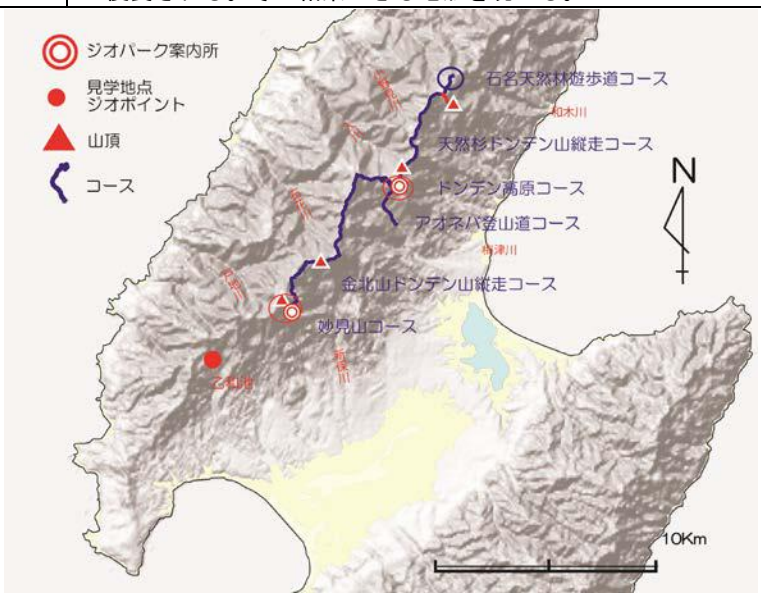
テーマ	佐渡島最古の地層と火山活動の開始
天然記念物等	名勝佐渡海府海岸
見学ポイント	一億年前より古い岩石。雄大で急崖の海岸。トビシマカンゾウ群生地。 太古の深海や地下深くでおきた出来事を記録する数々の岩石が見られる。 これらに重なる火山活動開始の地層に記された歴史を知ることができる。

②　海府南部ジオサイト

テーマ	湖畔の森の化石群と天然杉林
天然記念物等	名勝佐渡海府海岸
見学ポイント	2000 万年前佐渡島の骨格を作った陸上火山と、その裾野に広がる湖沼および森と動物の跡を記録した地層をみる。天然杉を見ながら悠久の時間を感ずる。 人類活動による森林資源収奪の歴史を理解する。

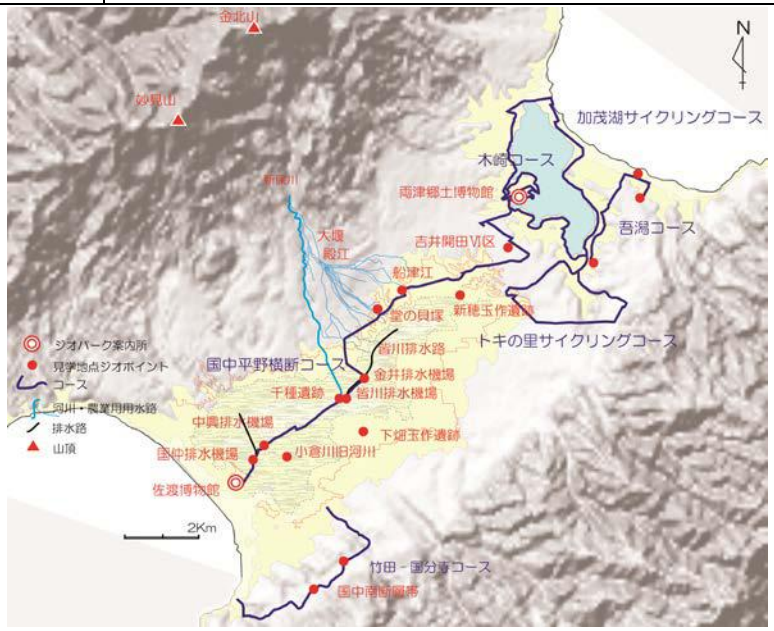
③　大佐渡トレッキングジオサイト

テーマ	深海底から標高 1,000m 以上に成長した山地を歩く
天然記念物等	佐渡弥彦米山国定公園、乙和池の浮島及び植物群落
見学ポイント	佐渡島のパノラマと遠景。天然杉林、ミズナラ林。気候と高山植物 厳しい環境で生育する動植物の種類や生育が観察できる。隆起する山地は必然的に侵食される。その結果できる地形を眺める。



④　国中平野・加茂湖ジオサイト

テーマ	水と山と人の生活を考える
天然記念物等	佐渡弥彦米山国定公園（加茂湖）、新穂玉作り遺跡出土品、羽吉の大クワ
見学ポイント	穀倉地帯。河川水の利用と災害の歴史と地形の関係をたどる。河川と平野の変遷をたどる。 大佐渡・小佐渡山脈の隆起運動と地形の変遷、加茂湖の出現の形成史をたどる。氷河時代の国中平野・加茂湖を考え海水準の変化を知る。縄文時代から食を求めた人の暮らしと大地の歴史の関連を知る。



⑤　相川・金銀山ジオサイト

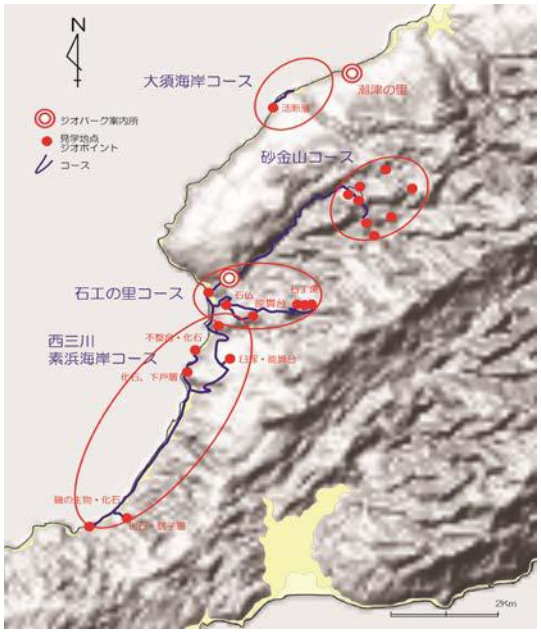
テーマ	金銀鉱脈の形成と鉱山史を学ぶ
天然記念物等	名勝佐渡海府海岸、平根崎の波蝕甌穴群、史跡佐渡金銀山遺跡（地質百選）等
見学ポイント	金と銀を含む石英脈や鉱石。世界に誇る鉱山史と文化 中新世前期のはじめの火山活動で加熱された熱水が、周囲の岩体から金や銀を集積し、石英脈の中に金銀が濃集した。その石英脈の形成メカニズムを学ぶ。400年以上続いた鉱山の歴史や採掘から製錬、精製技術を見学する。

⑥　沢根中山峠ジオサイト

テーマ	佐渡島誕生の海底散歩
天然記念物等	台ヶ鼻、台ヶ鼻古墳、浜端洞穴遺跡、沢根崖等
見学ポイント	中新世前期末の大海進と、深海化し、珪藻の大繁殖を示す深海底の変遷をみる。広域火山灰と広大な段丘地形をみる。 約 1000 万年間の時間を示す連続露頭がある。そこを古い時代からの地層から新しい時代の地層へと露頭をみて歩く。日本列島全域をおおった火山灰と超大型火山噴火を考える。

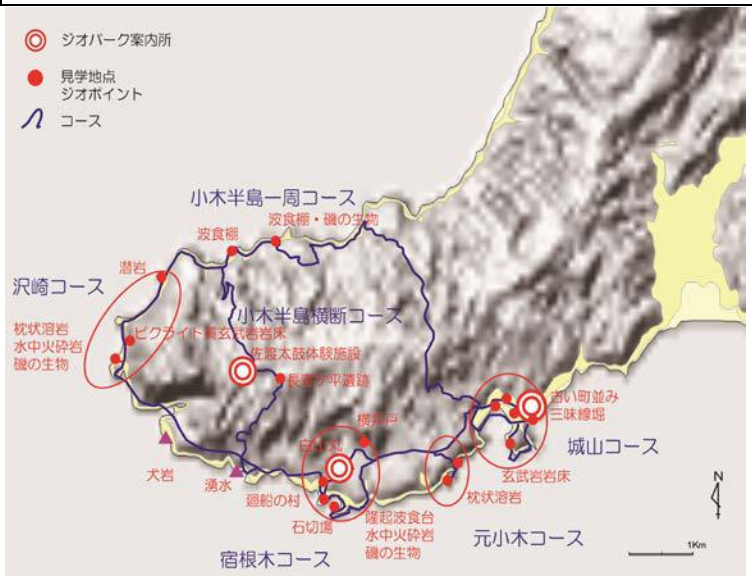
⑦　西三川・砂金山ジオサイト

テーマ	砂金山と活断層を訪ねる
天然記念物等	佐渡西三川の砂金山由来の農山村景観、小泊須恵器窯跡群
見学ポイント	砂金山にまつわる遺構、遺跡や絵図から当時の砂金採掘の歴史を知る。石仏・石臼文化と「石工の里」を訪ねる。活断層露頭。 火山岩の山から金銀の粒子が洗い出され、砂金山になる誕生の瞬間を思い描く。近くには、石臼や石地蔵等を彫る「石工の里」があり、今も製作している。山が動く（地殻変動）ことを実感でき、そのメカニズムを理解できる。



⑧　小木半島ジオサイト

テーマ	地殻変動とマグマを実感
天然記念物等	天然記念物及び名勝佐渡小木海岸、御所桜、宿根木重要伝統的建造物群保存地区、地質百選「佐渡小木海岸」、岩屋山石窟、長者ヶ平遺跡等
見学ポイント	小木地震の跡。隆起波食台の全面露頭。地下水と新田開発。北前船の寄港地 玄武岩質の海底火山活動によって作られた海底火山の内部を見る。枕状溶岩、水中火砕岩、岩脈の様々な火山岩を海蝕崖と波食台の連続露頭で観察する。 横井戸開発による生活基盤転換と地質の関連から、苦闘と歓喜の歴史を学ぶ。

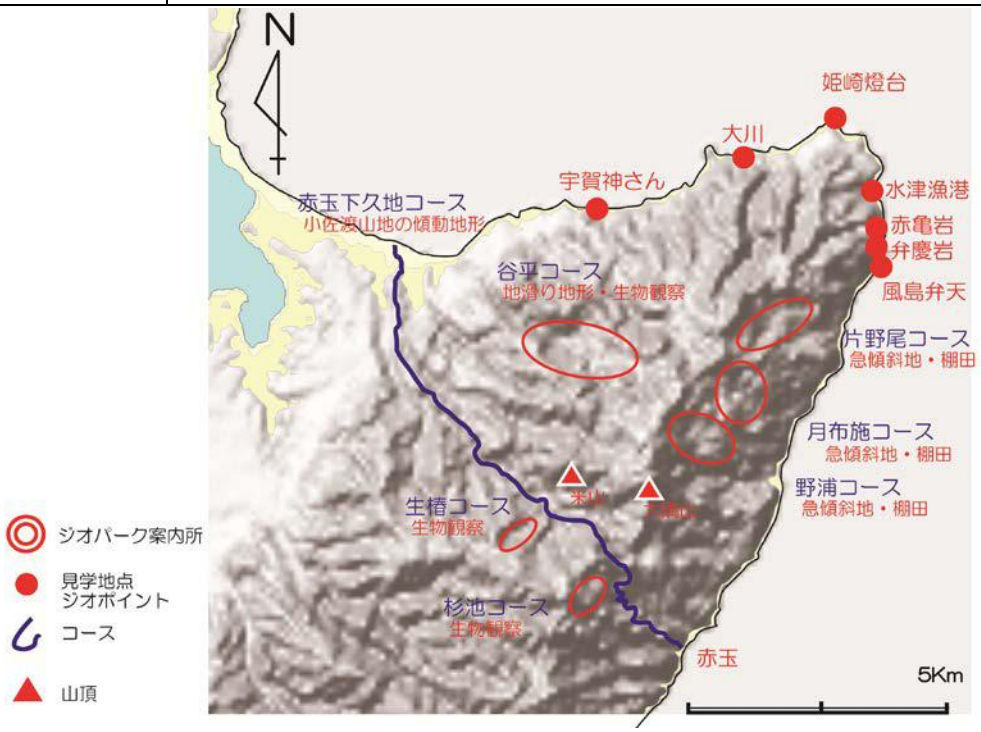


⑨　前浜海岸ジオサイト

テーマ	3 億年前の岩石たち
天然記念物等	新潟県立自然公園
見学ポイント	化石を含む巨大な岩塊。地下深部で生まれた花こう岩体。棚田。 2 億 5 千から 3 億年前に生存したコケムシ、フズリナ化石や放散虫化石が発見され、年代が決定された。小佐渡山地の頂上付近に海成の堆積物層がある。

⑩　小佐渡北部ジオサイト

テーマ	棚田から深海の断層と漁場
天然記念物等	新潟県立自然公園、杉池の広葉樹林、豊岡のビワ群落、世界の灯台百選・日本の灯台 50 選「姫崎灯台」
見学ポイント	地形。棚田。明治創設の灯台。エビ・カニ漁場等近海魚のあがる漁港。 地滑り崩壊地を利用する棚田とその風景。赤玉石の産地。傾動地塊を示す地形。



【参考】

○　世界文化遺産

佐渡には、400 年以上にわたる金銀採掘・製錬に関連する遺跡や建造物・景観が良好な状態で保存されています。

それは、人類が獲得した鉱山技術のほぼすべてを見ることができる世界的にも貴重な文化遺産です。

佐渡で産出された金や銀は、江戸幕府及び明治政府の社会的・経済的な基盤を支えたと言われています。近年は、人類の産業の発展を伝える「産業遺産」が世界遺産として積極的に評価されています。国内の貴金属鉱業をリードした佐渡金銀山は、未来に受け継がれて行くべき遺産であり、新潟県と佐渡市は、この遺産群の世界文化遺産登録に向けて取り組んでいます。

相川金銀山（道遊の割戸）

○　ＧＩＡＨＳ（ジアス）（世界農業遺産）

ＧＩＡＨＳは、2002 年（平成 14 年）から始まった仕組みです。生物多様性環境の保全や農耕文化、伝統の保護、自然景観の保全等、農業が持つ食糧の生産という役割に加え、生物資源や文化的諸要素の次世代への継承を目指すための活動で、平成 23 年に佐渡市と能登半島が認定されました。

棚田の眺望（岩首）

佐渡島では、１７世紀に入り相川金銀山の本格的な稼働が始まり、ゴールドラッシュとなって人口が急増しました。土木や水利には、鉱山の技術がいたるところで使われ新田開発や水利技術が発達し、山間深くにまで棚田が開発されました。

認定には、良好な里地里山の自然環境が形成されてきたことや、能や鬼太鼓等の佐渡独特の農村文化を保全し伝えてきたことが大きく評価されました。またトキの野生復帰を契機に始めた「朱鷺と暮らす郷づくり認証制度」は、持続的な自然との共生や生物多様性を保全する農業生産活動として評価を得ています。

自然界に放されたトキ

≪生物多様性≫

近年の社会活動や開発等人が引き起こす要因によって生物多様性の危機が起こりました。その象徴としてトキが挙げられます。環境省や地元住民の努力により、平成 24 年４月には 36 年振りに自然界でヒナが誕生し、38 年振りに巣立ちし佐渡の自然の中で生息しています。トキは佐渡の豊かな自然環境を示すシンボルであり、トキが生息することにより、生物多様性に対する市民の関心や理解を深める機会になっています。

佐渡ジオパーク推進協議会
（事務局）佐渡市教育委員会社会教育課ジオパーク推進室
〒952-0021　新潟県佐渡市秋津 1596 番地（両津郷土博物館内）
TEL:0259-23-2101　FAX:0259-23-4820
E-mail:sado-geopark@city.sado.niigata.jp